



緑地のエコロジカル・ネットワークの保全と回復

【主な課題】

都心には都立公園などの比較的大規模な緑地が残っているものの、宅地などへの開発が進み、崖線などに残された緑地の更なる分断化が進んでいます。樹林などの管理不足や草地の減少により、明るい林や草地にすむ生きものが減少しています。

【将来像】

崖線・保全地域・公園などの緑地、河川・用水・湧水、街路樹を軸とするエコロジカル・ネットワークの保全と回復が進み、身近な生きものが戻ってきています。



エコロジカル・ネットワークの軸となる用水
(玉川上水)



生きものに配慮することでコゲラが飛来した、
都市部に広がる民間緑地(こげらの庭)

東京の台地の持つ雨水浸透機能の活用

【主な課題】

都市化の進展により樹林や農地の減少が進み、地面が建物やアスファルトに覆われることで、雨水が河川や公共下水道へ直接流れ込んでいます。雨水の地中への浸透が妨げられることにより、湧水が減少しています。

【将来像】

東京の台地の水はけの良さを活用し、雨水を浸透させることにより、河川や公共下水道への負荷を低減し、浸水被害の軽減に寄与しています。また、十分に雨水がかん養され、湧水が復活しつつあります。特に武蔵野三大湧水池は拠点として保全されています。



周囲に降った雨水を集めて地下に浸透させる
レインガーデン(世田谷区立上用賀公園)



市街地に残された貴重な湧水群(真姿の池湧水群)

地域の在来生態系の回復

【主な課題】

アライグマやハクビシンなどの外来種により、カエル類など希少な在来の生きものの捕食被害や、農作物被害などが生じています。また、公園の池などでは、オオクチバスやブルーギル、アメリカザリガニ、アカミミガメといった国外由来の侵略的外来種による影響のみならず、別の地域から持ち込まれた国内由来の外来種によって、在来の水生生物に対する捕食や競合、遺伝的攪乱などの問題が生じてきています。

【将来像】

外来哺乳類の防除も進み、希少な生きものの生息環境が守られています。また、公園などではかいぼりやその後のモニタリングなどへの市民参画が活発化し、身近な自然の守り手が増える中、本来の在来の生態系がよみがえっています。



井の頭池における市民協働でのかいぼり



在来生態系がよみがえった井の頭池

都市農地の保全

【主な課題】

経済活動の拡大にともなう都市化の影響や相続、また、農業従事者の高齢化や後継者の不足により農地は年々減少が進み、市街地における生きものの生息・生育環境としての役割や、雨水浸透機能が失われつつあります。

【将来像】

農業の担い手が育成されるとともに、市民農園や体験農園などの多様な農作業体験の場が提供されることで農地が保全され、生きものの生息・生育環境や雨水浸透などの機能が維持されています。



農業体験農園



多面的な機能を有する市街地に残された都市農地